

午後Ⅱ試験

全問共通

全問に共通して、自らの経験に基づき設問に素直に答えている論述が多かった。一方で、問題文に記載してあるプロセスや観点などを抜き出して一般論と組み合わせただけの表面的な論述や、実施した事項を論述するだけにとどまり、実施した理由や検討の経緯が読み取れない論述も少なからず見受けられた。自らが実際にシステムアーキテクトとして検討し取り組んだことを、設問に沿って具体的に論述してほしい。

問1

問1では、先進技術の適用によって、従来人手によってしか実現できないと考えていた業務を、大幅に効率化したり、自動化を実現したりした経験についての論述を期待した。多くの受験者が設問に沿って論述できていた。一方で、一部の受験者は、単なる作業を“入力業務”や“議事録作成業務”などとし、本来の業務目的を深く理解しないで論述していた。このような論述では、新技術の適用手順や方法、適用方針などが具体的に論述できていないものが多かった。例えば“銀行における振込依頼のための手書き依頼書の登録業務”など、業務目的を正しく理解して論述してほしい。また、実現した場合の効果である工数削減やコスト削減、信頼性向上などを述べるにとどまり、大幅な効率化や自動化が可能と考えた理由に触れていない論述も散見された。

システムアーキテクトは、絶えず新技術を探求しつつ、業務の内容や目的を理解して適切に適用できるように心掛けてほしい。

問2

問2では、業務上の特性や制約に基づいて、バッチ処理の設計を工夫して課題を解決した経験についての論述を期待した。多くの受験者が実務で経験したことがうかがえる内容を論述できていた。一方で、“並行して実行処理しているバッチを重ならないようにした”といった運用で対処した論述や、“サーバを増設して複数台で並行処理した”といったハードウェアで課題を解決した論述など、設計の工夫とは言えないものも見受けられた。また、“優先度が高いものを取り込んだ”といった内容だけが述べられていて、業務と優先度の関係が具体的に述べられていないので、妥当性が判断できない論述も散見された。

システムアーキテクトは、課題を適切に抽出し、業務上の特性や制約を踏まえた対応策を工夫することを心掛けてほしい。